

1 概要

日本セーリング連盟は、外務省と協力の上、今年度の外務省スポーツ外交推進事業として、令和元年9月26日から9月30日まで、山田真・佐藤麻衣子日本セーリング連盟普及指導委員会委員と李東潤日本セーリング連盟国際委員会委員をパラオ共和国へ派遣し、セーリングのコーチングを実施しました。

現地では10代前半の子どもたちやその父兄、パラオ社会文化省職員など合計18人に参加頂き、セーリングの基本動作やセーリングの楽しみ方を海上で実際に船を動かすことを通じて体験してもらいました。最終日には子どもたちを対象とした簡易的なセーリングレースを実施し、競争している子どもたちだけでなく見ている大人たちも熱い声援を送りながら楽しむことができました。

レースを実施した9月29日（日）は、パラオ共和国独立25周年である10月1日を控えた週末だったこともあり、また陸や橋から近い海面で実施したことから、セーリング競技になじみのない方々にもご覧頂くことができ、多くの方にとって有意義な時間でした。

なお、この事業は、日本政府のスポーツを通じた国際貢献策「Sport for Tomorrow：SFT」の一環として行ったもので、スポーツ分野における国際協力と国際交流の促進を図ることを目的として実施しています。日本セーリング連盟としては今回を含め、SFTを2015年度から過去5年間継続的に実施してきました。

2 受講者コメント

参加してくれた10代前半の子どもたちからの声

- ・今回のプログラムを受けて、セーリングの楽しさがより分かりました。
- ・みんなと一緒にレースをやるのが楽しかったですし、日本の皆さんと一緒に時間を過ごし日本に訪れたい気持ちが高まりました。もっとヨットを気軽に楽しめる環境がパラオでも整ってくれれば嬉しいです。

